

産学連携キャリアシンポジウム2013

学生の目的意識の向上と社会に役立つ学びを追究する「産学連携キャリアシンポジウム2013」(キャリアデザインセンター主催、センター長=小林隆ネットワーク情報学部教授)が3月15日、神田キャンパスで開催された。基調講演では、(株)ブリヂストンの荒川詔四取締役会長が自らの経験をもとに「トラブルを恐れず挑戦を」と学生にエール。インターンシップで本学の学生を受け入れている企業や自治体の関係者を交えたパネルディスカッションでは、円滑な連携のための方策を話し合った。※学年、役職はシンポジウム開催時



専修大学 産学連携キャリアシンポジウム2013
社会と大学との学びサイクルの活性化

学生に求められる社会貢献

冒頭、日高義博学長が「大学全人時代を迎え、目標を持たないまま卒業していく学生が増えている。社会貢献できる人材に育てるキャリア教育が求められているが、その内容や方法は定まっていない」と問題提起。本学の取り組みを小林センター長が解説後、3力年間にわたり、課題解決型インターンシップに参加したネットワーク情報学部4年次の佐野太刀彦さんが、NPO法人でイベント開催にかかわった体験を発表し、「何をすべきか考えさせられるこの連続で、学ぶ姿勢が根本から変わった」と成果を強調した。続いて、藤原正仁ネットワーク情報学部講師、キャリアデザイン

センター事務課の堀野賢一郎課員から米国の大学や国内の先進的な事例が報告された。これを受け、パネリスト5氏▽長谷川信(青山学院大学副学長)▽抱山洋之(小田急電鉄執行役員・人事部長)▽中村健(川崎市経済労働局産業振興部長)▽菅沼啓吾(東京新聞編集局長)▽小林センター長 が討論に写真。進行役の大山雅嗣氏(日本生産性本部人材開発コンサルタント)が、これまでの議論から「主体的に学ぶ学生の育

成と生涯学習の支援」とキャリア教育を定義。さらに「目標にたどり着くことだけではなく、不測の事態や偶発的な出来事に対処することがキャリアをデザインすることと補足すると、約250人の聴衆の中はうなずく人も見られた。キャリア教育における本学の産学連携について、小林センター長は「現状は産業界や自治体側の負担が大きく、ギブアンドテイクになっていない」と説明。「大学が社会貢献、ボランティア、研究開発など何らかの恩恵をもたらす存在にならないと、川崎市、小田急

電鉄は人材育成・交流の連携協定を結んでいる。中村氏は「学生の発想や企画力に対する中小企業や商店街の期待は大きい」と評価しつつ、「受け入れたとしても時間やノウハウのない経営者もいる」と指摘。抱山氏は「どうしたら小田急沿線の住民を増やせるかというテーマで課題解決型インターンシップを実施したが、学生さんだけが来てもらって機能しない。受け入れに試行錯誤している」と現場の戸惑いを明かした。

本学をはじめ3大学からインターンシップ生を受け入れている菅沼氏は「現場体験で気づきがあるなら就業型も意義がある。一律に日数を指定せず、3日間ぐらいから柔軟に運用してもらえれば」と提案。文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」で首都圏18大学を束ねる幹事校の長谷川氏は「調整が力ギになるのは確実だが産学連携だけでなく大学の連携も必要かと思う」と応じた。

パネリストからは「自分の意見を自分の言葉で語れる人間力を磨いて」「文章を書き上げて思考する訓練を」と学生に注文も。議論が熱を帯びる中、4時間にわたるシンポジウムが閉会した。

パネリストからは「自分の意見を自分の言葉で語れる人間力を磨いて」「文章を書き上げて思考する訓練を」と学生に注文も。議論が熱を帯びる中、4時間にわたるシンポジウムが閉会した。

パネリストからは「自分の意見を自分の言葉で語れる人間力を磨いて」「文章を書き上げて思考する訓練を」と学生に注文も。議論が熱を帯びる中、4時間にわたるシンポジウムが閉会した。

◆荒川詔四(株)ブリヂストン取締役会長が基調講演◆

トラブル恐れず挑戦を

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

日本人はあいまいで自己主張しないと否定的に言われますが、慎重しやかで周囲と協調する姿勢は美点でもあり、グローバル化時代でも日本人は大いに活躍できます。そ

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

「順調にトラブル」。私は通算18年間海外で生とや難しいことに取り組みむときにトラブルはつきもの。トラブルが発生したら「順調だ」と明るくとなえ、前向きに解決すればいい。多少の困難でいたずらに落ち込まないことです。

地域経済と産業テーマに

社会科学 愛媛と徳島で実態調査

社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。

社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。

社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。

社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。

社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。

社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。



社会科学研究所(所長・町田俊彦経済学部教授)は、2012年度春季実態調査(参加者14人)を2月24日から27日まで愛媛・徳島両県で開催した。テーマは「愛媛県東予地方ならびに徳島県における地域経済と産業の実態に関する調査研究」。

専修人の新しい本

民法(第九版)
本書は、わが国で最も偉大な民法学者である我妻榮博士の民法入門書の最新版である。もともと60年以上前に出版されたが、今日まで補訂を重ねてきた定評のある民法入門書であったが、今回、本学の良永和隆教授により全面的な大改訂が施され、リニューアルされた。

本書は、わが国で最も偉大な民法学者である我妻榮博士の民法入門書の最新版である。もともと60年以上前に出版されたが、今日まで補訂を重ねてきた定評のある民法入門書であったが、今回、本学の良永和隆教授により全面的な大改訂が施され、リニューアルされた。

心理臨床家の成長
今日の日民法学学習者のニーズに対応させて、民法

心理臨床とは、折々に直面する場面を受け止めていくための学び、臨床現場との向き合い方や処方方が豊富に示されている。

心理臨床家が、折々に直面する場面を受け止めていくための学び、臨床現場との向き合い方や処方方が豊富に示されている。

心理臨床家の成長
今日の日民法学学習者のニーズに対応させて、民法

心理臨床とは、折々に直面する場面を受け止めていくための学び、臨床現場との向き合い方や処方方が豊富に示されている。

心理臨床家が、折々に直面する場面を受け止めていくための学び、臨床現場との向き合い方や処方方が豊富に示されている。